

高遠藩の遺産

最後の藩主が残したもの

令和4年度冬季企画展



獅子頭（江戸時代、個人蔵）



洋太鼓（幕末～明治初め、個人蔵）



馬鈴（江戸時代、個人蔵）

令和5年1月14日(土)→2月26日(日) 長野県立歴史館

開館時間 ● 午前9時～午後4時(入館は午後3時30分まで) 休館日 ● 毎週月曜日、及び2/24(金)
交通案内 ● 長野自動車道「更埴IC」から車で5分。しなの鉄道「屋代駅」、「屋代高校前駅」から徒歩25分。

主催 ● 長野県立歴史館 共催 ● 伊那市、伊那市教育委員会、宮田村教育委員会
後援 ● 信濃毎日新聞社、朝日新聞長野総局、読売新聞長野支局、毎日新聞長野支局、産経新聞長野支局、中日新聞社、長野市民新聞社、市民タイムス、市民新聞グループ、長野日报社、南信州新聞社、NHK長野放送局、SBC信越放送、NBS長野放送、TSBテレビ信州、abn長野朝日放送、(一社)長野県ケーブルテレビ協議会、FM長野、FMぜんこうじ、屋代有線放送電話農業協同組合、(公財)八十二文化財団

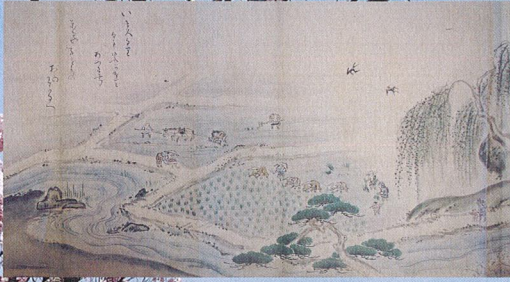


観覧料 ●

| 区分 | 企画展 | 企画展+常設展・講座 | 講座 |
|-----|-----------|------------|-----------|
| 一般 | 300(200)円 | 500(400)円 | 300(200)円 |
| 大学生 | 150(100)円 | 250(200)円 | 150(100)円 |

・()内は20名以上の団体料金。高校生以下は無料。
・講座聴講の方は常設展もご覧いただけます。
・常設展のみご覧の方は料金300円です。
・障害者手帳などの交付を受けている方と同伴の介護の方は無料。
・お得な年間パスポート(1,500円)も販売中です。

高藩探勝 (伊那市立高遠町歴史博物館蔵・伊那市指定有形文化財)



的場村早苗 (上巻)



商家営昌 (中巻)



勝間刈穂 (下巻)



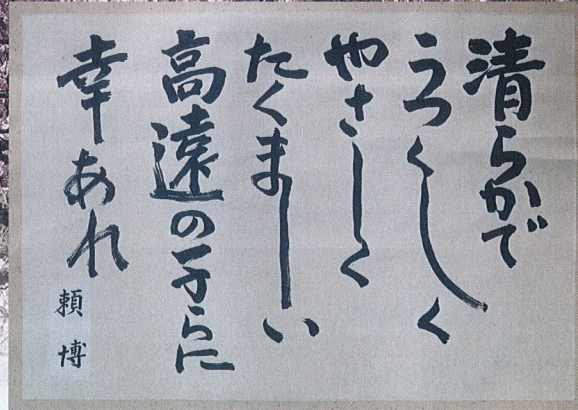
高遠城下眺望図 (当館蔵)

高遠藩主が150年前に残した武具や道具類はなぜ今も残されているのか。進徳館はなぜ今も大事にされ心に残るのか。地域に伝わる資料から明治維新がもたらした大きな変化を感じるとともに、地域に生きた人々の思いに触れます。



五聖像 (孔子)

(伊那市立高遠町歴史博物館蔵
伊那市指定有形文化財)



清らかに (伊那市立高遠小学校蔵)

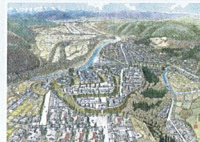


鎧

(東高遠諏訪神社蔵
伊那市立高遠町歴史博物館寄託)

関連
展示

池上 典氏 高遠城再現図・展景図展



関連
イベント

講座 1月28日(土) 13:30 ~ 14:45

1 テーマ 「内藤家が地元に残したもの」
講 師：伊那市教育委員会 大澤佳寿子氏

12月15日(木)
より募集開始

講座 2月18日(土) 13:30 ~ 14:45

2 テーマ 「厩稲荷の奉納品」
講 師：宮田村教育委員会 小池勝典氏

同時
開催

千曲川・梓川はこう変わった
—江戸・大正の絵図図が伝える— (複製絵図展示)
主催：歴史的水害史料活用研究会

* 今後の状況により中止、延期、または人数制限等を行う場合があります。詳しくは当館公式サイトでご確認いただくか、お電話にてお問い合わせください。お問い合わせ Tel: (026) 274-3991 (総合情報課直通)



長野自動車道「更埴IC」から車で5分。
しなの鉄道「屋代駅」、「屋代高校前駅」から徒歩25分。

長野県立歴史館

〒387-0007 千曲市屋代 260-6 (科野の里歴史公園内)
Tel: (026) 274-2000 (代表) <https://www.npmh.net/>

Nagano Prefectural Museum of History

長野県立歴史館たより

2022年 冬号 vol.113

特集
—
冬季企画展

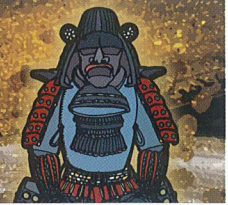


高遠藩の遺産  最後の藩主が残したもの

令和4年度
冬季企画展

高遠藩の遺産

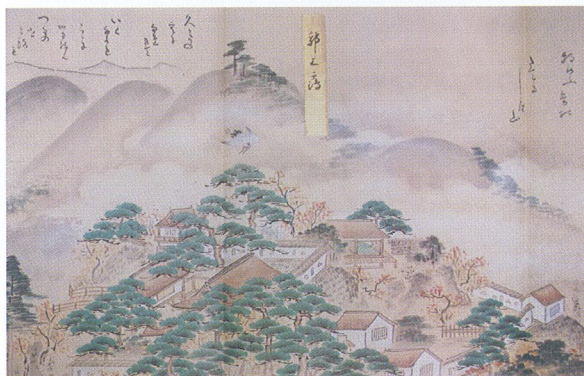
—最後の藩主が残したもの—



今年度の冬季企画展では、幕末の高遠藩を取り上げます。およそ150年前、高遠藩の最後の藩主であった内藤頼直よりなおが、上京する間に高遠に残していった武具や道具類。内藤頼直の治世時に開校した高遠藩校・進徳館から輩出され明治時代に活躍した人材。本展は高遠藩が残したモノや人材に注目し、焦点をあてる展示です。ここでは主な展示品を紹介します。

①「高藩探勝」全三巻

上・中・下の三巻からなる絵巻物です。いずれも長さが10m前後もあります。藩主が、高遠藩領内の景色をひとり占めすることを惜しみ、広く人びとに知らせるために作らせたものです。



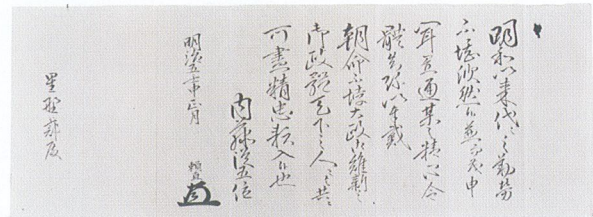
高藩探勝 下巻 郭上鶴
(伊那市立高遠町歴史博物館蔵)

全部で52の景観が色彩豊かに描かれ、砂浴びをする馬や猿回しの猿に吠える犬など、生き生きとした動物たちも登場します。また、それぞれの景観に、金箔に書かれた画題と和歌が添えられています。1743（寛保3）年に完成しました。江戸時代の高遠藩の様子分かる貴重な資料として、2008（平成20）年に伊那市指定文化財となっています。3巻とも期間中場面を替えながらの展示となりますが、明治維新以前の高遠藩の景観をご覧いただければと思います。

②星野しとみ菰宛内藤従五位書状

廃藩置県後、内藤頼直は新しく藩知事となりましたが、1871（明治4）年には高遠藩が高遠県となり、更に、高遠県は筑摩県に編入されたため、頼直は知事の任を解かれ上京を命じられます。それに伴い、頼直は旧藩士らに礼状を送りました。

この礼状を送られた星野菰しとみとは、藩の要職を務め、藩校・進徳館じゆんせいでは助教として子弟の教育にあたった藩士・星野純政のこです。



星野菰宛内藤従五位書状
(伊那市立高遠町歴史博物館蔵)

礼状の中で頼直は、「今後は新政府に従うように」と論じています。本展示では、純政宛て以外に藩士・武井久平宛てのものも展示します。個人宅で大切に保管されてきたもので傷みがほとんどなく、初めて公に出るものです。同じように、現在も個人で保管され続けている「お殿様からの拝領品」がまだ存在するのではないかと考えます。

③高遠城図（城地周辺鳥瞰図）



高遠城図（城地周辺鳥瞰図）部分
(伊那市立高遠町図書館蔵)

高遠城の様子を大観できるこの絵図の作者は、高遠出身の日本画家、池上秀花・秀畝親子のどち

らかと考えられています。

二ノ丸内に「御馬屋」の文字が書かれ、隣に鳥居が描かれています。これが厩^{うまや}稲荷であると考えられ、本殿や関係する奉納品類が、藩の御厩小頭であった小田切伊左衛門に下賜されたことが分かっています。

また、その他にも城内に1つの鳥居と社殿、2つの鳥居と社殿が描かれており、1つの鳥居と社殿の方は笹曲輪^{ささまがら}の稲荷、2つの鳥居と社殿は勘助稲荷であると考えられ、高遠城内には複数の稲荷があったことが分かります。

④鈴

高遠城内にあった厩稲荷の本殿や奉納品類を下賜された小田切伊左衛門の子孫にあたる個人宅で代々大切に守ってきたものの一つです。鈴本体の上半分に「奉納 御厩稲荷 文政三庚辰年 二月八日」と刻まれており、高遠城内にあった厩稲荷の奉納品であることが明確です。もともと本殿・上家の正面に吊るされていたものと見られます。



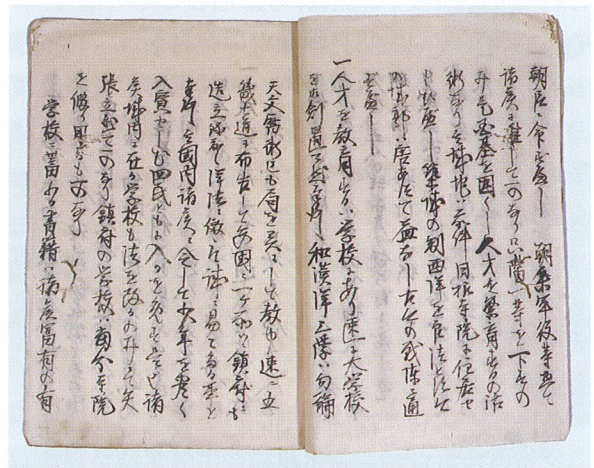
鈴 (個人蔵)

⑤黒水先生明治元年十二月太政官へ奉リシ建白書

中村元起（黒水）が太政官へ提出した学校設立についての建白書です。

中村元起は、医師であり高遠藩の藩儒であった中村元恒^{もとつね}の次男です。35歳の時、昌平坂学問所で朱子学を学び多くの学者と接しました。とくに、昌平坂学問所の儒官であった佐藤一斎からは、陽明学や実学の重要性を教えられました。元起は、師^{ふくさい}の林復齋に、藩学を振興させたいという思いを伝え、助力を願いました。当時の高遠藩は財政難

によって藩校設立の余裕がありませんでしたが、内藤頼直の治世となってから、1860（万延元）年、設立が実現しました。これが進徳館です。はじめは三ノ丸学問所と呼ばれましたが、後に林学齋（復齋の次男）によって「進徳館」と命名されました。現在でも進徳館の入り口に掲げられている「進徳館」の額も学齋の書によるもので、進徳館という名前は、易経の「君子進徳脩業 忠信 所以進徳」（立派な人となるためには徳を進め業を修めなければならない。忠信は徳を進めるために大事な心構えである）が由来となっています。進徳館において元祖は文学師範を務め、進徳館閉校後は、筑摩県に出仕し公学校の設立に尽力し開智学校（松本市）設立にもかかわりました。



黒水先生明治元年十二月太政官へ奉リシ建白書
(伊那市創造館蔵)

なぜ多くの武具や道具類が残ったのか。なぜ進徳館から多くの人材が輩出し、今も進徳館は大切にされるのか。その背景には、明治維新という大きな変動期とともに生きた人びとの思いや努力があったと考えます。現在にもつながる人びとの思いや努力について展示を通してお伝えできたらと思います。
(河野智枝)

Information

会 期 2023(令和5)年1月14日(出)~2月26日(日)
会館時間 午前9時~午後4時(入館は3時半まで)
休 館 日 毎週月曜日、2月24日(金)
観 覧 料 企画展のみ300円(大学生150円)
高校生以下は無料。
講座聴講は講座券(300円)または
共通観覧券(500円)が必要